

希学園 第408回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第408回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年5月10日実施)	https://vimeo.com/1190673207/fbe8ea5a9e

1

イメージしやすい高さの音から始めるの

できます。

関連 枠を

ア ウ

本 弱 頭

仕方 追究 結局

給食 放課後 共有

ウ ア イ

最初の アイ 自分は

ア イ D

1

一曲を通してできるだけ具体的に詳細にイメージして演奏を行うこと。

2

自分が好きな本を人に勧めていっしよに楽しむチャンスだと思ったから。

配点	
17・8 21・2	各2点×12=24点
15 25	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

(同意可)

(同意可)

① (高垣智『吹奏楽のための心づくり・体づくり』より)

1 「イメージし」は「始める」か「やすい」かのどちらかとつながるが、「始める」とつないでしまうと残りが合わなくなるので、「イメージしやすい」が決まる。「イメージしやすい」は「高さ」か「音」を修飾する場合と、「の(がいいでしよう)」とつながる場合が考えられるが、「の(が)」とつないでしまうと残りがうまく合わないことと、問いの『高さ』は三番目に来る」という言葉から「イメージしやすい高さの音」が決まる。ここまで来ればあとは矛盾がないようにつないでいけばよい。

2 前半が「一つの旋律をイメージする練習」、後半が「一曲を通してイメージする練習」である。

3 線②の直前に書かれている「そこ」も同じ言葉を指している。どこに向かうのか、どこを過ぎるのかと考えながら前をたどれば「フレーズの頂点」が見つかる。

4 「頭のトレーニングの最後に…」から——線③までは、アンソニー・プログ先生の言葉を挙げ、その真意を説明したあとで具体的にその理由を示して——線④でまとめ直している、という流れである。ここから「すべてが、演奏のための頭の中のトレーニングになる」理由は、プログ先生の言葉の真意を説明していたところとつながっていることに見当がつけば、◎の文の言葉に合わせてⅡが答えられる。Ⅰは「音楽の周辺にあるさまざまなこと」が、プログ先生の言う「世の中のあらゆること」と意味が似ていることから、「つながっている」といった意味の言葉がはいると当たりがつけられる。

5 「そういうこと」とは直前の「一曲を通してこれを行う」ことを指している。この部分を土台にして、◎の文の言葉に合わせながら「これ」が指す言葉を説明しよう。

6 pについては本文で「あらゆる音域で、明確に音をイメージする力は、あらゆる音域を演奏できることにつながる」とあったのでアが答えになる。qは「全体がばらばらな感じになる」ことが困っている原因なので、「曲全体の構成」、つまり一曲を通してイメージする練習を重ねることで、「導入」や「クライマックス」や「橋渡し」の場所を把握することができ、全体にまとまりができるようになると考えられるので答えはウとなる。rは打楽器という他のパートが関わるので、「頭の中で」他のパートも含めた全体を再生するやり方」でイメージの練習をするべきだと考えてウとなる。

7 X「本心」。対義語の「建前」とセットで覚えよう。Y「いくじのない言葉」。Z「音頭を取る」で「先に立って人をみちびくこと」。

8 a「仕」のつくりを「土」としないようにしよう。b「追及」・「追求」といった同音異義語と区別しよう。c「結局」は糸へんや口を一画ずつついでに書こう。

② (織守きょうや『ファースト・アンド・オンリー』より) ※ 問題作成の都合上一部表現を改めています。

1 a「食」は八画目を省いたり、九画目とつなげたりしてはいけない。b「放課後」はそれぞれの字が続け字にならないようにていねいに書こう。c「共有」は「共」を「供」としないように気をつけよう。

2 X「食が細かい」でふだんからあまり食べないことを表す。Y「肩身が狭い」はまわりの人たちに引け目を感じる様子。Z「風」はここでは「様子」の意味で使われている。

3 「見た目のイメージとは違」って「自分は好きにするから、そっちもお好きにどうぞ」というそつけない態度であった、ということである。関の見た目については「赤ちゃんをそのまま小学生にしたような感じ」と書かれていた。

4 問3のようにそつけない態度だった関が積極的に陽子と話そうとし始めたことに対して、陽子は意外だと感じている。

5 関は陽子を見たあとで、自分の読んでいた本を読むことを陽子に勧めており、続く会話の中でその理由を語っている。

6 陽子がぶつきらぼううな話し方をする理由は本文のはじめの方に書かれていた。登場人物の人となりわかる部分についてははじめの通読のときにしっかり印象つけてほしい。

7 物語の会話文において、本来漢字で書く言葉をひらがなやカタカナで表記することで、発音者がその言葉の意味をよくわかっていないことを示すことがある。ここではそれぞれの陽子の発言のあとで、関がその言葉の意味を説明していることから、Aの選択肢にある『ふきょう』や『きょうゆう』といった言葉の意味を理解していないことを表していると考えられる。その他、漢字で書く言葉をひらがなやカタカナで表記しているときは、別の意味がこめられている、という場合もある。

8 そのあとで関が本を薦める理由を説明していることから、口から出ていたのは「なんのために？」であると考えられる。

9 「言い出しにく」という表現は、「言いたくない」や「言わずにいた」とくらべて、何かはばかれる事情があることを感じさせる。ここまでの関のそつけないさや本を薦めてくる様子から、陽子をおそれたり、同情していたりしているとは考えられない。

10 本文のはじめにある学校から帰ったあとの陽子の行動から、勉強や家事はふだんから行っているとわかるので、ここで改めて感心しているとは考えづらい。それよりも本文のはじめから九行目に「友達はいなかった」とあることから、陽子の口から「友達」という言葉を聞いたことが嬉しかったと考えられる。

11 もどす場所を選ぶ問題なので、【A】【D】の中から「彼は普通の家の子だから」とつながりがいいものを選ぶ。家に帰っても誰もいない陽子と違って、夕食の支度をして待っている家族がいる関優征は「帰らなければいけない時間」であるということである。以上